

松本城の歴史

松本城築城以前

(1) さまざまな山城

松本城が築城される 16 世紀後半以前から、周辺の山々には城が点在していた。戦国時代の各地域の争いの中で、大名と呼ばれる武将たちは、領地を守るために城のネットワークを構築した。ここでは、松本盆地を囲む山々の城のうち、代表的なものを紹介する。

1. 林城（大城・小城）

松本がある信濃国（現在の長野県）を治めていた小笠原氏によって築かれた城。林城は、現在の松本市山辺地区にあった。林城は、馬蹄形の尾根の両端に位置する大城と小城の 2 つの城郭からなる。1550 年、武田信玄（1521-1573）がこの地を攻め、小笠原氏は林城を放棄した。小城の主郭には石積みの一部が現在も残っている。

2. 桐原城と山辺（中入）城

林城の対岸の山奥にある 2 つの城。桐原城は桐原氏の城で、戦略的に峠の道筋を押さえる地点に位置していた。山辺城は中入城とも呼ばれ、山辺氏の城である。高さ 2.5m の石積みは現在も現地で見る事ができる。

3. 埴埴原城

埴埴原城は、現在の松本市中山地区にあった大きな城である。どの武将が築城したかは不明。

4. 稲倉城

現在の松本市岡田地区にあった、後序家の居城。

5. 虚空蔵山城

会田氏の居城で、現在の松本市会田地区にあった。1550 年、武田信玄が小笠原氏を破った後、信玄と、松本の北にある越後国（現在の新潟県）を本拠とする宿敵上杉謙信（1530-1578）の戦いの最前線となった。

6. 平瀬城

平瀬城は、現在の松本市島内地区にあり、平瀬氏が支配していた。小笠原氏は 1550 年に林城を追われ、平瀬城に逃れてきた。小笠原氏は平瀬城から反撃の計画を練った。

7. 城山城

松本市城山地区はかつて犬甘氏の領地であり、1400 年代には犬甘氏がこの地に砦を築いた。現在では、春になると桜の名所として親しまれている。

8. 井川城

井川城は、この地域の他の城とは異なり、山ではなく平地に築かれた城である。林城が築かれるまでは、小笠原氏の本来の拠点であった。

9. 清水城

清水城は、小笠原家の家臣である島立家が支配していたと考えられている。この城は現在の松本市島立地区にあった。現在はほとんど残っていないが、清水城も井川城と同様に平地に築かれた城の一つである。

(2) 深志城

松本城築城以前、この地には深志城と呼ばれる小規模な城郭があったと考えられている。しかし、この深志城が松本城にどのような影響を与えたかについては、ほとんど分かっていない。

室町時代初期（1336-1573）、深志郷は坂西家によって統治されており、何らかの荘園を有していたものと思われる。その後、1504 年に小笠原家の家臣である島立貞永（1517 年没）が深志城を築いた。

小笠原氏は長く松本周辺を支配したが、1550 年、武田信玄（1521-1573）が林城を攻め、小笠原長時（1514-1583）を北に追いやった。その後、信玄は深志城に本拠を構え、城の修理や拡張を行ったと思われる。

武田家は 1582 年、織田信長（1534-1582）によって滅ぼされるまで深志城を支配した。その後、この地は戦国大名上杉謙信（1530-1578）の支配下に置かれ、謙信は家臣の一人に深志城を預けた。その後、小笠原長時の子、小笠原貞慶（1546-1595）が深志城を奪還し、小笠原氏の帰還を記念して、この地を「松本」と改名した。

勝利したとはいえ、小笠原家が松本に長く留まることはなかった。1590 年、待望の帰還からわずか 8 年後、東日本に移封された。豊臣秀吉（1537-1598）は松本の支配権を彼の側近である石川数正（1592 年没）に与えた。